



# 知床自然教室の30年

今年7月、知床は世界自然遺産登録から5年を迎えます。遺産登録にあたり、「しれとこ100平方メートル運動」は、知床の自然を保全する先進的な活動として高く評価されました。1977年に始まったこの運動がこれからも続いていくために、そして知床の自然を次世代に残していくために何が必要なのか、30年目を迎えた知床自然教室から考えます。

## 知床自然教室

6泊7日の日程で100平方メートル運動参加者の子弟を対象に開催。野外キャンプを中心に森づくり作業や知床の森の探検を行う。ここ数年の参加者数は40名ほど。地元斜里町や関東、関西の他、海外在住の子どもの参加も多い。写真は第30回自然教室(2009)。

**知床自然教室とは**  
「本当の自然とは何か、何故私たちはこの自然を守らなければならないのかを次世代を担う青少年のみなさんに知っていただきたい。(中略) しれとこ」を守っていかねばならないのは若い、青年のみなさんだからです」

これは1980年、第1回知床自然教室の参加者を募る案内文の一節です。それから30年、自然教室はこの思いを受け継ぎながら今も続いています。

100平方メートル運動では、知床の開拓跡地に原生の森を復元する森づくり作業を進めるとともに、知床の森と運動参加者の皆さんをつなぐ「しれとこの森交流事業」として「森の集い(植樹祭)」「森づくりワークキャンプ」、そして「知床自然教室」を開催しています。

毎年夏、自然教室には、小学4年生から高校3年生までの子どもたちが全国各地から集い、知床の自然の中で数日間のキャンプ生活を送ります。テントを建て、かまどを作り、薪を拾い、水を汲み、米を炊き、野外での生活は、けっして楽ではありません。子どもたちは生きるために必死で日々を過ごし、その達成感とともに知床の森の記憶を心に刻みつけてい

り合おうというものでした。

きます。そしてこの自然教室の森や草原こそ、たくさんの方々の方に支えられ、守られた特別な土地「100平方メートル運動地」であることを知っていくのです。

これまでの30年間で、のべ15000人以上の子どもたちが自然教室の夏を経験してきました。

## 知床への回帰

2009年、知床自然教室は30回目の節目を迎えました。9月には「知床への回帰」と題した企画を開催し、全国から自然教室の卒業生とその家族など総勢63名が知床に集いました。一口に卒業生と言ってもその世代は様々、自然教室初期の卒業生はすでに40代、一方最近の卒業生はまだ10代です。ただ世代は違っても、自然教室で過ごした日々と知床への思いは共通です。

その中には、自然関係の仕事に就いた人、関東や関西から知床に移り住んだ人もいます。今は親となり今度は自分の子どもを自然教室に参加させている卒業生も少なくありません。

今回の企画は、かつての仲間と知床に集い、思い出の場所を再訪する中で、子どもの頃に体験したそれぞれの自然教室の夏を振り返るとともに、大人となった自分たちが知床のために何ができるか語

自分たちを育ててくれたこの知床の森や100平方メートル運動が、例えばこれから30年後もあるように、今度は自分たちがそれを守り育て、次の世代へと引き継いでいく番だと参加者の多くが感じています。そして今、そのために何ができるか考え、行動に移し始めています。

この30周年を機に、彼らはネットワークを作り、継続的に知床や運動について話し合う場を持つようになりました。また、古くから運動を支援していただいている関東や関西の支部に新たに加わり、その支援の輪を引き継いでいこうとしている仲間もいます。そしてなにより、知床を未来に残していくためにも、しれとこ100平方メートル運動について、もっとたくさんの人に知ってもらおうと、自分の身近なところから少しずつ伝えることを始めています。

ある卒業生は「私たちは知床にまかれた種だ」と言いました。今その種はまさに実を結ぼうとしています。

自然教室で育まれた知床への思いは、確実に次の世代へと受け継がれようとしています。「何故私たちがこの自然を守らなければならないのか」という30年前の問い掛けに答える時がきています。

## 自然教室30周年「知床への回帰」

写真右/キャンプ地へ向かう坂道。子どもたちが必ず通るこの道の景色は年とともに変化している。

写真下/卒業生とその家族。自然教室の経験は次の世代へと引き継がれてゆく。

